**入　選**

# 繋ぐ。国を越えて

水戸市立第四中学校
一年　佐藤莉桜

「プハァー。運動後の水は、格別だな。」

私は、体育の授業の終わりに水を飲むこのしゅん間が大好きだ。水を飲むとキンとした冷たさが体全体にしみわたる。水は、私を幸せにしてくれる。「じゃ口をひねれば水が出る」ということが当たり前だと思っていた。私は、良くも悪くも恵まれていたのだ。

水に対しての思いが変わったのは授業でＳＤＧｓを学んだ時だった。テーマについてまとめ、一人ひとり発表をすることになったので私はテーマを「水」に決め、みんなに見せるための資料をつくっていた。その時一枚の写真が目に入った。それは、私よりも小さな子が汚く、茶色くにごった水を飲んでいる写真だった。水を当たり前だと思っていた私は衝撃を受けた。こんなことも知らずにいままでたくさんの水を無だにしてしまっていて、とても恥ずかしくなった。

世界の三人に一人、二十二億人の人々が安全に管理された水を手に入れられていない。サハラ以南のアフリカ諸国の子ども達は、毎日重い水を運ぶために長い道のりを歩いている。どんな場所でも、じゃ口をひねればキレイな水が簡単に手に入れられる日本では想像もつかない日常だ。苦労して手に入れた水は飲み水に適さない、ゴミや泥などでにごった水であることが多い。不衛生な水しか得られないために毎日八百人の子ども達と体の弱い人が命を落としている。どうしてはやく知ることができなかったのだろうと心が痛くなった。私がちょっとだけでも無だにしなかったら救われた命があったのかもしれないのに…。「勉強をしてみたい」「学校へ通ってみたい」そう思っていても、水くみの仕事に時間をうばわれてしまって、子ども達が満足した教育を受けられなくなってしまう。教育を受けられないというこ

とは子どもたちの将来の様々な夢や希望をうばうだけでなく、貧困からのがれる術さえ失わさせてしまうことになる。子どもの教育の機会の損失も重労働も安全な水さえ確保できるようになれば解決することができる。私は、水が大切だということを改めて感じた。恵まれた国に生まれた以上水を守る責任があると思った。

さて、先程、「恵まれた国」と書いた、私たちの住んでいる日本に水問題はあるのだろうか。日本は、大陸の国々と比べて土地がせまいことから河川が急勾配になっており距離も短いといった特徴がある。そのため、いくらたくさんの雨が降っても海へと流れ出てしまうため、簡単には、淡水が確保ができない。一九九四年には、こうした地形の理由から全国的な渇水が起こった。日本は数少ない水道水をそのまま飲める国だが、やはり安心はできないのだなと思った。

水と人間は切っても切り離せない関わり合いになっている。私たちは水によって「命」を守られているのだ。水には限りがあり無限に出てくることはない。水は有限である。そんな水を守るために私たちができることはなんだろうか。私は世界に目を向けて正しい知識を念頭に置くことだと思う。恵まれた環境にいる人ほどその価値というものはよく見えていない。その価値も知らずに生活すればなにも変わらない。それどころか悪化してしまうだろう。今まで恵みに感謝の気持ちを感じずにすごしてきた。しかし、私はあの写真を機に水の大切さ、必要性に気付くことができた。一人ひとりが小さな努力を積み重ねていけば未来はきっといい方向へむかうだろう。国を越えて水は心を繋ぐ。世界中の全ての人が安全な水を得られるようになる未来のために、あなたも一歩ふみ出してみませんか？